



令和8年  
(2026年)  
4月号  
Vol.76

# もちのき



(社会福祉法人愛の森広報紙/郵送用・一般用)

[発行]社会福祉法人愛の森(厚木市森の里青山 14-2(Tel:046(248)5211)) [編集発行責任者] 國分 隆之

## 「バリアフリー」の奥深さ

「約5年後を目途に、入所施設「愛の森学園」を全面改築します」といって数年が経過🌊。なかなか具体的な工程表を示せないなかですが、昨年度、先進施設をいくつか視察し、基本構想イメージが大分できてまいりましたので、今年度は文章化し、関係の皆さんと意見交換などしながら、熟度を高めたいと思っていますところでは。

先日、朝の時計代わりに何気なく付けていたテレビで、パーキンソン病の患者さんとアナウンサーさんの会話が耳に入りました。高齢者の方では結構多いといわれているこの病気、社会生活でも色々ご苦労があることを改めて知りました。そのなかで、アナウンサーの方が「街のなかはどうでしょう？ バリアフリーとか？」と水を向けたところ、「スロープが必ずしも望ましいとはいえない」、「水平垂直の構造の方が脳の感覚的にも受け入れ易い」といったお話があり、パーキンソン病の知識がない私には非常に印象的でした。「バリアフリー」を「疾病や障害に対応したハードの配慮」と捉えた場合、パーキンソン病の方々にとっての「バリアフリー」は「なだらかなスロープ」ではなく、「(感覚的に受け易い)ほどよい段差」ということでしょうか。

「バリアフリー」が本格的に世の中で語られ始めたのは平成になって少し経ってからと記憶しますが(旧ハートビル法(※)の施行は平成6年)、時が経つにつれ、課題は顕在化し、多様化しているのかな、と思った次第です。

※「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」… 公共建築物のバリアフリー化を促進するための本邦初の本格的立法。現在は、「交通バリアフリー法」と統合され、バリアフリー新法に。

我が学園の利用者さんのなかにも一定数おられる「自閉症・自閉的傾向」についても、利用者さんごとにその特徴・特性・ご要望は多様です。疾病や障害ごとに配慮事項を「類型化」する知見は近年進んできていると思いますが、現場での設計に際しては、類型化されている知見を踏まえるのは勿論ですが、現に住まわれている利用者さんそれぞれとしっかりと向かい合い、その「個性」も大切にしていきたいと思っています。

3月の理事会・評議員会で、全面改築に向けた基本設計着手等を含む事業計画をご承認いただきました。今年度こそ「全面改築に向けての工程表を示す」という年度初めの決意表明👁️に代えて…。 [國分 隆之]

### [実習!] 湘北短大の学生さん(〜♪: 3月9日(月)~20日(金))

👧 2週間という長丁場の実習でしたが、どうでしたか？

👧 初めは声の掛け方も関わり方も、何もわからない状態で不安でしたが、2週目になると利用者さんの方が私の名前を覚えてくださり、声をかけてくれるのが、とても嬉しかったです。各利用者さんの個性なども徐々にもわかるようになり、お互い慣れてくると、1週目は接点のなかった利用者さんとも触れ合うことができ、「しっかり認識していただけている」と緊張のなかにも心地よさを感じました。

[次ページに続く。]

録画してはなかったのですが、表現ぶりは不正確かも🌊



- 👤 利用者さんと実際に接してみて、どう感じましたか？
- 👤 想像とは全く違い、日々の皆さんの活動が多様で自由なこと身近に感じることができ、非常に大きな学びとなりました。(職員などに)字を書いてもらいそれを見て楽しむ利用者さん、周りの様子をじっくり観察されている利用者さん、ご自身の選択で色々とお楽しみを見つけられる利用者さん、などなど、それぞれのご意思やお考えで行動されていることがよくわかりましたし、それを汲み取りつつ、支援をしている職員の方の様子も勉強になりました。
- 👤 福祉施設は初めてということでしたが、最後に…。
- 👤 いままで保育の仕事以外は余り考えたことがありませんでしたが、今回の実習で、興味の幅が広がりました。楽しかったです。ありがとうございました。

### **【熱唱！】 地元フォークデュオをお招きして盛り上がった「春の会」：3月14日(土)**

寒暖差や花粉症が悩ましい一方で和やかな春の季節を感じつつあるこの時期、愛の森学園では、例年「春の会」と称して、入所利用者さんのご家族をお招きし、ランチとレクリエーションを楽しむイベントを開催しています。もともとは、新年のイベントでしたが、年始はインフルエンザ等に見舞われ中止となることも多く、季節を春に移して実施するようになりました。

会の第一部では、厚木で著名なフォークデュオのお二人をお招きしての音楽歌謡ショー。「マナカマサ」さんは厚木市を拠点として活躍され、多くの福祉系事業所などでの訪問演奏の実績も多い、とても素敵なフォークデュオです。日本を代表とする超ヒット歌謡曲から、鉄腕アトム、秘密のアッコちゃん等々、多くの昭和のアニソン(アニメソング)や、いわゆるジブリ映画のテーマ曲メドレーなど、誰でも口ずさめる楽曲がちりばめられた選曲に、利用者さんもご家族も職員もタンバリンや手拍子で大盛り上がり！ ギターの奏でる音色にのりながら、とても愉快で元気の出る歌謡ショーになりました。

第二部は、皆さんお楽しみの食事会。歌謡ショーの余韻にも浸りつつ、ご家族との団欒を深めながら、春らしい彩りの松花堂弁当や厨房手作りのコーヒーゼリーなどを味わいました。

この日の「春の会」をもって、令和7年度の主なイベントは総て終了。各職員で分担しながら、学園では大小含め、様々なイベントを開催してきましたが、令和8年度も、利用者さん、ご家族や地域の皆さんに楽しんでいただけるイベントを実施していく所存です。



### **【自主企画旅行！】 ホーム仲間同士で企画し、飛行機で徳島へ！：2月26日(木)・27日(金)**

それは年末の利用者さんから職員への電話で始まりました。☎ 支援計画のことでお話が…半期に一度見直しを行う支援計画は、利用者さんと職員で相談しながら作っていくものですが、こういう電話は一寸珍しいので、どんな相談かと一寸ドキドキしながらホームでお待ちの利用者さんのところに伺います。すると…。そこで出たお話は、意外なものでした。

😓😓😓 皆でフェリーに乗って徳島に行くんだけど、一緒に行かない😓？

GH仲間3人で自ら一泊旅行の企画をし、職員に随行を依頼する、という意欲的な企画は、早速支援計画に追記され、「公式イベント(ガイドヘルパー制度)」に！

2か所のGHにお住まいの利用者さんが連携しての意外で楽しい企画に驚くとともに感動し、早速、旅行会社との調整などに着手！、2月下旬に実施の運びとなりました。

交通手段も、新幹線、フェリー等々を含め様々検討し、仕事の関係で一泊二日となったことから、フェリーは断念し飛行機利用となりましたが、飛行機初体験の利用者さんもおられて、それはそれで大盛り上がり！

当日、搭乗予定の飛行機を目前にすると「あれ？思ったより小さいじゃん。大丈夫かな、揺れるかな～」と心の声が漏れる💧利用者さん…。機内では座席モニター等を見つつ、緊張していた利用者さんも徐々にリラックスしながら約1時間のフライトで、徳島阿波踊り空港に到着！

まずは「腹ごしらえ」ということで、予め念入りに検索済のご徳島ラーメンの有名店へ。写メを撮ったり、スープを一口飲んで「うん、旨い！」等々、ご当地B級グルメでキックオフ！

食後は徳島動物園へ行き、白熊やライオンなどにご挨拶した後、阿波踊り会館へ向かい、「阿波踊り保存会」の人たちによる生の阿波踊りを観たり、展示による阿波踊りの歴史を勉強したり、ゲーム感覚で楽しめる阿波踊り体験をするなど、阿波踊り三昧を楽しみました。

宿泊先は、鳴門湾が目前に広がるホテル4階の角部屋。一同、遠くに鳴門大橋を眺めつつ「すっげー景色いいじゃん！」。一寸休憩した後は、夕食のbuffet会場へ。地場の物を中心に次から次にお皿へ盛り放題！アルコールも若干入っての宴会は大いに盛り上がりました。



さて、2日目はいよいよ今回の旅のメインである「渦潮観光」です。

生憎の曇天ではありましたが、船のデッキで海風を感じつつ、潮と潮がぶつかる迫力を生で感じます！「あ、ほんとに渦巻いてるじゃん！」

写真を撮ったり風景を目に焼き付けたり、と「ナマ渦潮」を十分に船上で堪能したあとは、再度上陸し、道の駅「うずしおくるくる」にて、ホームの仲間や職場、そして自分用のお土産を購入。

最後に、飛行機の苦手な某施設長をレンタカーで徳島駅に送り、ご当地の「鳴ちゆるうどん」を食べながら反省会。

😊 今回の旅行は100点満点で採点すると何点ですか？

😊 80点！でも、夜、もう少しゆっくり寝たかった(笑)

😊 躰がうるさくてごめんね💧

😊 次は、京都・大阪で食い倒れの旅もいいねー！

😊 今度は皆さんだけで行くこともできそうですね！

利用者さん自らが企画した今回の一泊旅行。職務の一環としての随行ではありましたが、一緒に楽しむことができ、非常に感慨深いものとなりました。



**[それぞれの地域連携!]** | 施設、3グループホームでの地域連携会議開催：3月上中旬

地域の関係者の方々との連携や交流を通じ、利用者さんへの支援の質の向上を図る、といった趣旨で、令和7年度から入居型施設での設置・運営が義務化された地域連携推進会議。

3月6日(金)の愛の森学園(入所支援施設)開催を皮切りに、3月17日(火)までに3GHごとの開催を行い、4つの会議をほぼ同時期に開催しました。

会議の運営に際しては、関係者の皆さんから具体的なご意見を伺えるよう、学園、GHごとに、テーマを設定。

	「地域連携推進会議」のテーマ
学園	「高齢化・重度化」への対応
GH	社会参加/近隣との関係強化

平均年齢が50歳となった学園での会議では、管轄駐在所の警察官、消防本部の幹部、近隣特養ホームの施設長をお招きし、利用者さんの加齢化が進むなかで、利用者さんが引き続き安心して学園生活を送っていただけるよう、現状の緊急時対応の在り方や、今後想定され得る「看取り」などについて、ご意見・ご助言を賜りました。



「学園」での会議の様子(3月6日(金))

また、10日(火)、14日(土)、17日(火)、に開催した3つのGHでの会議では、それぞれのホームの特性にあわせ、自治会、民生委員、地元企業労組幹部、連携薬局の薬剤師、福祉施設関係者などの中からそれぞれ数名にご参加いただき、地域ごとの状況や特性を踏まえた交流の在り方、具体的なイベントへの参加方法などについて、貴重な情報をいただくことができました。

いずれの会議とも、ご家族・利用者さんの代表と地域関係者との交流も含め、和気あいあいとした雰囲気のなかで行われました。ご参加の皆様にご感謝申し上げます。

**「メ」は虐待防止で!** | 令和7年度の学園内研修は、無事、すべて終了：3月25日(水)

月に一度の学園内研修。令和7年度の「メ」のテーマは「虐待防止と身体拘束の適正化」。このテーマは毎年必須のため、色々な伝手をたどって講師をお願いしますが、今回は神奈川県立保健福祉大学の岸川学准教授をお招きしました。岸川先生は横須賀市内にある自閉症専門の通所事業所での勤務経験があるとのことでしたが、なんとその事業所に、現在愛の森のGHにお住いの利用者さんが、昔ご自宅から通われていた、ということが判明し、非常な親近感を抱きながらの講義開始となりました。

『身体的・心理的虐待は支援の延長線上で起こるが、性的・経済的虐待は、虐待する側の明確な意図があること』、『「支援」を行う職員と利用者さんとは、よく対等である、と言われるが、実際は対等ではなく、力関係に差があるといことを自覚する必要があること』、『利用者さんの思い、家族の思い、支援職員の思いが一致することはなかなかないことを理解すべきこと』といった、虐待を発生させないために、根本として理解していくべきものごとの考え方などについて、「元支援職員」という現場の状況・課題を深くご理解いただいているお立場を踏まえ、具体性に富んだ内容でお話いただくことができました。

職員間での価値観の違いや人手不足なども含め、いずれの支援現場でも、その職場ごとの課題があるなかで、絶対に虐待を起こさないためには、計画的な対応(支援)を組織として実施すること、また、職員間の良好なコミュニケーションを保つこと、などを継続的組織的に行っていくことかと思えます。そういったことを改めて振り返ることのできる研修機会となりました。岸川先生、遠路本当にありがとうございました。

